

読書コーナー

コーヒーが冷めないうちに

著者：川口 俊和

この作品を読んで、人は過去に戻れたとしても現実そのものを変えることはできず、それをも過去と向き合うことに意味があるのだと感じました。喫茶店の特定の席に座り、コーヒーが冷めるまでの間だけ望んだ過去に戻ることができますが、どんな行動をしても現在が変わらないというルールがあります。この設定がとても印象的で、過去をやり直したいという誰もが抱く願いに対して、安易な救いを与えない点に現実味を感じました。

物語に登場する人物たちは、それぞれ後悔や未練を抱えながら過去へと向かいます。しかし彼らが得るのは、出来事のやり直しではなく、自分自身の気持ちの整理や、大切な人との関係を見



つめ直す機会です。その姿を通して、過去は変えられなくても、その受け止め方やこれからの行動は変えられるのだと気づかされました。

日常の中では、忙しさに追われて大切な言葉を伝え損ねたり、相手の気持ちを深く考えないまま過ごしてしまうことがあります。しかし、その積み重ねが後悔につながります。だからこそ、目の前の人との時間を大切に、自分の気持ちを素直に伝えることが重要だと感じました。

たとえ結果が変わらないとしても、思いをきちんと伝えることで後悔の形が変わり、心の中に区切りをつけることができるのではないかと思います。

過去に戻ることができない現実だからこそ、未来の自分が後悔しないように、一つ一つの時間や人との関わりを大切にしていきたいです。

(文責：奈良)



将軍の日 (中期5カ年経営計画作成セミナー)

『将軍の日』とは

戦国時代、将軍が戦場から離れた陣營で、戦局を見極め戦術・戦術を立てたように、経営者が日常業務から離れ電話も来客もない環境で、将来を見据え経営計画を作るセミナーです。社長を将軍にみたて、「将軍の日」と命名されました。

【受講料】

55,000円(税込)/名

2名様以降5,500円(税込)

お問い合わせ：めいわ税理士法人

027-361-5568 担当：森平



先行経営Tasseiを行いませんか!

先行経営 Tassei とはズバリ「経営者の描く目標を達成させること!」です。そして目標を達成させるためには「経営計画」が必要です。経営計画を立てても実現しないのは、計画とズレたことを把握したあとの行動が伴っていないから。計画とのズレを毎月見定め、修正行動に移す。この一番実践できない「修正行動」の部分、実際に行っていくことが出来るのが「先行経営Tassei」なのです。と同時に、経営者の意識や行動が明らかに変化します。

【料金】月額 55,000円(税込)から

編集後記

二十四節気では、立夏を迎える5月が夏の始まりです。暑い日が増える時期を迎えますので、ご愛覧ください。

めいわ新聞

MEIWA SHINBUN  
令和8年5月号  
第201号

高橋税経グループ

めいわ税理士法人 TEL:027-361-5568

鎌倉M&Aセンター TEL:027-364-8040

相模手續支援センター群馬 TEL:027-368-5959

〒370-0006 群馬県高崎市田原町47-4 高橋税経ビル FAX:027-361-3661 URL:https://meiwa-tax.com E-mail:info@meiwa-tax.com



所長挨拶

薫風の候、皆さまにはまずまずご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、長引くイラン戦争の影響を受けて、様々な資材の原料となるナフサが不足し、建設業界では塗料や建材が手に入らず、工事がス

トップしてしまっているというようなことも起こっています。ある顧問先の方のお話によりますと、物によっては新規発注がすでに止まってしまっているとのことでした。

一方、コンビニやスーパーで馴染みのプラスチック容器ですが、こちらも値上がりどころかすでに不足し始めているようです。先日新聞記事に、ある食品販売店では、容器持参の客には30円値引きするという取り組みを始めたこととありました。買い物には便利なプラスチック容器ですが、食事が終わった後のゴミの山を見ると、いったいこれらはどうやって処分されるのだろうかと思ったりすることもあります。昔、自転車の荷台に豆腐の入った水槽を乗せて、ラッパを吹きながら町内を回っていた豆腐屋さんがいきましたが、その時は自宅の鍋を持って豆腐を買いに出たものでした。

また時たま、屋台のラーメン屋さんがチャルメラを吹きながら回ってきた時には、ラーメンどんぶりを持って走り出たものでした。肉屋さんでも魚屋さんでも、包装はへぎ(経木?)と新聞紙

と決まっていた。建築資材についてはどうしようもありませんが、食品包装についてはこの機会にもう一度考え直す必要があるのかも知れません。

もう一つ、イラン戦争に関する話題を。

イランによるホルムズ海峡の封鎖が続く中、先月「出光」の大型タンカーが海峡の外に出たとの報道がありました。外務省は折衝の成果を強調していましたが、一方で「イランによる恩返し説」も浮上しています。

1953年に英国との対立が深まり原油の輸出ができなくなった時に、日本の「出光」が英国による封鎖を破って原油を買い付け、助けてくれたことに対する恩返しだということです。恩返しというと、1890年のトルコの軍艦エルトゥール号遭難の際の日本の救助に対する、1985年のトルコによるテヘラン在留邦人の救出が思い起こされます。トルコの恩返しは95年越しであり、今回のイランの行為が恩返しだとすればこちらは73年越し。イスラム教の教えには「人の恩義に善行で応える」というのがありますが、長い間恩義を忘れずにおいて、いざという時には必ずそれを返すというのはイスラムの教えによるものだけではないのでしょうか。

一年で一番いい季節となりました。

皆さまには、五月の自然を十分に楽しみ頂けますよう、心からお祈り申し上げます。



Contents

- P1 所長挨拶・目次
- P2 税務トピックス

- P3 職場の教養
- P4 読書感想文・将軍の日・編集後記

めいわ税理士法人 ～税務TOPICS～

【在職老齢年金制度改正のご案内です】

2026年4月スタート

働きながら年金を受給する皆さま在職老齢年金制度が改正されます

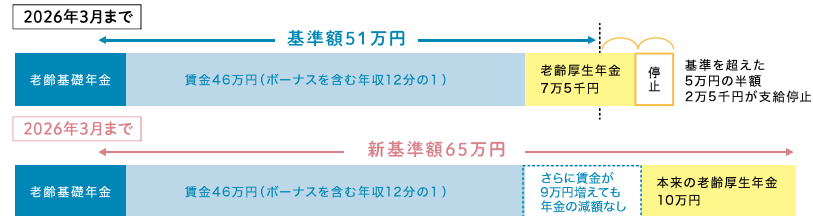
年金の減額を意識せずより多くの収入を得られるようになります！

働く方の年金が減額<sup>※1</sup>になる基準額<sup>※2</sup>が変わります



※1 老齢基礎年金は減額されません。  
 ※2 基準額とは賃金と老齢厚生年金を合わせた金額です。上記の金額は毎年度、賃金の変動に応じて改正されます。

【例】賃金月46万円、老齢厚生年金の受給額が月10万円のイメージ



老齢厚生年金が全額受給できるようになります

65万円を超えても、実際に支給される年金額と賃金の合計額はなだらかに増加する仕組みであり、手取り収入が減少することはありません。

在職老齢年金制度とは

在職老齢年金とは、働きながら年金を受給する高齢者について、一定額以上の報酬のある方は年金制度を支える側に回っていただくという考え方にに基づき、年金の支給額を調整する仕組みです。

- ・年金のうち、調整の対象となるのは「老齢厚生年金」のみです。
- ・支給される額の計算は、月額単位で行います。
- ・基準額を超過した場合に調整(支給停止)されるのは年金です(給与には関係ありません)。

今回の見直しの趣旨は？

令和7年年金制度改正法に基づき、令和8年4月から、年金が減額になる基準額(賃金と老齢厚生年金の合計)が51万から65万に引き上げられます。平均寿命・健康寿命が延びる中で、働き続けることを希望する高齢者の方の活躍を後押しし、より働きやすい仕組みとすることが、今回の見直しの趣旨です。

※基準額は毎年度、賃金の変動に応じて改定されます。

(引用:日本年金機構HPより <https://www.nenkin.go.jp/service/jukyuseido/roureinenkin/zaishoku/20150401-01.files/zairo.pdf>)

朝礼にて～職場の教養～

毎日の朝礼で、一般社団法人倫理研究所の「職場の教養」を輪読し、感想を述べています。その感想で、良かったものを紹介致します。

4/3(金) 新年度の情報共有

新年度は職場に変化が生じやすく、新たな方針の導入や業務内容の変更、メンバーの入れ替わりなどが重なり、情報共有の重要性が一層高まる時期といえます。

そのような環境において、必要な相手に情報を的確に伝えることが、余計な混乱を招かない第一歩となるでしょう。

しかし、「伝えたつもり」や「分かっているだろう」といった思い込みから、十分な情報共有が行われていない場合もあります。

さらに、新しい体制への不安は、多くの人にとって避けたい感情であり、その結果、認識のずれや誤解を生じ、業務の進捗に支障をきたすこともあります。

こうした状況の中でも円滑な業務運営を図り、前に歩み続けるためには、情報を独占するのではなく、相手の立場や状況に配慮し、変化の背景や目的を理解した上で必要な情報を共有しながら丁寧に説明する姿勢が大切です。

恐れず逃れず、誠意を持って意図を伝えることが、職場全体の信頼関係を築きます。互いの理解と協力は、いつの時代も大切な要素であるといえるでしょう。

今日の心がけ 相手を尊重し丁寧に説明しましょう

新年度における情報共有の必要性について書かれていましたが、仕事は勿論の事、子育てにおいても新年度は環境の変化が大きく情報共有の重要性を痛感する時期でもあります。

高校2年に進級した息子は、学校からの配布物などを自分から渡していただくことはほぼ無く、支払や署名が必要なものだけ期限直前に出てきます。ここ数年、学校のアプリ経由で保護者に直接書類が配信される機会も増えて助かっていますが、こちらから情報を仕入れない限りはいつ登校しても休みのなかもわかりません。昨年は入学式で保護者が直接受け取る書類が多くありましたが、今年は一休のようなことやら、スリリングな1年が始まろうとしています。

そんなスリルは子育てだけで十分ですので、仕事においては相手に不安を与えないよう、相互に十分な情報共有を心掛けたいと思います。

(文責:林)

